



平成 23 年 7 月新潟福島豪雨により只見川が氾濫し、魚沼から尾瀬へと続く国道 352 号沿線は金泉橋の流失などにより一時的に寸断されました。今回は平成 25 年 10 月 8 日に完成した**金泉橋の復旧工事**について紹介します。

魚沼と尾瀬を  
結ぶ

## 国道 352 号 金泉橋

金泉橋は新潟県と福島県の県境をまたいで只見川に架かる橋で、流失した橋は昭和 46（1971）年に架けられたものでした。



### 金泉橋復旧までの道のり



- ①流された金泉橋（平成 23 年 8 月撮影）
- ②仮橋による通行確保（平成 24 年 6 月撮影）
- ③新しい金泉橋の建設工事（平成 24 年 10 月撮影）
- ④平成 25 年 10 月 8 日に完成した新しい金泉橋

只見川上流域には 4 日間で 400 mm～600 mm の大雨が降りました。只見川は急激に水位が上昇、河岸を激しく浸食しながら猛烈に流れ下り、金泉橋を流失させてしまいました。これにより「魚沼から行く尾瀬ルート」は仮橋が完成する翌年の 6 月まで通行ができなくなりました。



- ①被災直後の獅撫沢、②復旧間近の獅撫沢、③流木が押し寄せた旧船着場、④新船着場の駐車場（新潟県整備）、⑤新船着場（魚沼市と奥只見観光（株）が整備）

獅撫沢橋周辺では只見川の洪水により、橋と道路の大部分が流失してしまいました。現在は新しい橋が架かり道路も整備されました。

尾瀬口船着場は流木が押し寄せ、また、付近はたまった土砂により川底が高くなり船が着岸できなくなったため、約 500m 下流に新しい船着場が作られました。船着場のバス駐車場は新潟県が、乗船箇所までの階段は魚沼市が、棧橋は奥只見観光開発株式会社が設置しました。

金泉橋の復旧工事における苦勞や工夫について工事を担当された中元組の竹石さんにお話を伺いました（裏面へ）。







## 遠くて短い？！

国道 352 号を魚沼市街から尾瀬へ向かって約 60km、時間にして 2 時間程走ると標高約 870m の新潟・福島県境に架かる金泉橋に到着します。付近は豪雪地帯であり実質的に工事ができるのは約半年。遠い現場かつ短い工期という制約の中で、作業を確実に進める必要があったことから、材料などの運搬は念入りに計画し、狭く曲がりくねった新潟県側からではなく、福島県側からの輸送も取り入れました。



## 只見川の洪水を想定する

金泉橋が架かる只見川は雨が降ると急激に水量が増える川で、2 年間の工事において数回現場が浸水しました。ある程度の浸水は想定済みでしたが、橋台（橋桁を架ける兩岸の台の部分）をつくる時は、流し込んだコンクリートが固まるまで浸水しないよう、工事の時期等を慎重に検討しました。この時に浸水してしまうと大幅に工事が遅れてしまうためです。

なお、すぐに病院に行ける場所ではありませんので安全管理と健康管理には十分注意しました。



## 金泉橋に感謝を込めて

工事中にわざわざ車を止めて「金泉橋はいつ完成するのですか？」と聞かれたことが何回もあります。そのほとんどが尾瀬ファンの方々に、質問されるたびに、少しでも早く完成させたいという思いが強まりました。

実は私も尾瀬ファンで、子どもの頃からよく親に連れて行ってもらいました。そんなこともあり金泉橋の復旧工事は他人事とは思いませんでした。私にとってこの工事は、楽しい思い出をたくさん作ってくれた「尾瀬への恩返し」です。無事開通させることができ、少しは恩返しできたのではと感じています。



赤い部分が新しい金泉橋。その下には旧金泉橋の橋台が見えます。



「自然に囲まれた、ある意味ぜいたくな現場です。」と竹石さん。



イノッチ

魚沼の賑わいを作り出す活動を展開している「湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会」会長の星雅彦さんにお話を伺いました。

## 道の繋がりは人の繋がり

平成 23 年 7 月の災害の時は店主を務める自在館にいました。至る所で土砂崩れが発生し道路が寸断。電気や水道も止まり栃尾又温泉は一時孤立しました。また、旅館の脇を流れる湯之沢川が大暴れ。露天風呂の脱衣所まで浸水し自慢の浴槽は泥桶になりました。私の一番の心配事はお客様の安全でしたが、幸いお客様には被害がまったくなく、朝起きると「散歩に行ってきます」という方がいらっしやっただけでした。重機で車 1 台がやっと通れる道を確保していただき、お客様を全員無事に送り出した時には本当に安心しました。

片づけは地元の建設会社に相談しました。豪雪の時も助けてもらっているので、地元建設会社があるというのは災害時は本当に心強いと感じました。

金泉橋の流失などに伴う国道 352 号の通行止めによりキャンセルが相次ぎました。また、お隣の桧枝岐との交流が難しくなりました。道が繋がっているから人も繋がっている、それが地域全体の活性化にも繋がっていく。人の流れが途切れてしまったのはつらかったです。その後は金泉橋をはじめ国道 352 号が復旧したおかげで、再び多くのお客様が湯之谷に来てくださるようになりました。残念ながら冬は福島へは通り抜けできませんが、魚沼市街から大雪が積もる栃尾又温泉まではきちんと道路は除雪され助かっています。ここにはお客様を喜ばせる非日常の世界があります。そのお客様の喜ぶ姿は私たちのエネルギーの源です。



平成 23 年 7 月の大雨で被害を受けた栃尾又温泉。土砂崩れにより山肌が見えています。



「私たちが雪で苦勞する姿を見せるとお客様は喜んでくださいます。本当に大変なんですけどね。」と話す星さん。

## せせらぎのあと

魚沼の山道でサルとキツネに遭遇（別々の日ですが）。ゆっくり車で近づくとスタスタと歩き始めます。ふと振り返った瞬間目と目が合ってびっくり。つぶらな瞳が愛らしく、しばらく見つめ合ってしまった。山の動物も冬支度かなと思うと同時に、厳しくて、でも、なぜか暖かみのある魚沼の冬が、もう、すぐそこまで来ていると感じたできごとでした。

発行  
お問合せ

新潟県魚沼地域振興局地域整備部計画調整課

〒946-0004 魚沼市大塚新田 91-4 TEL:025-792-4071 FAX:025-792-7401

URL : [http://www.pref.niigata.lg.jp/uonuma\\_seibi/](http://www.pref.niigata.lg.jp/uonuma_seibi/) email : [ngt111540@pref.niigata.lg.jp](mailto:ngt111540@pref.niigata.lg.jp)

